

Racing Topics

★中央競馬ニュース 文・谷川善久★

●コントレイルが無敗でクラシック三冠を達成

10月25日(日)に行われた菊花賞(G I)ではデビューから6連勝中のコントレイル(牡3歳/栗東・矢作芳人厩舎)が優勝、皐月賞(G I)、東京優駿(日本ダービー・G I)と合わせたクラシック三冠を無敗のまま達成しました。クラシック三冠馬は中央競馬史上8頭目、無敗での三冠達成は1984年シンボリルドルフ、2005年ディープインパクト(コントレイルの父)に次いで史上3頭目。ディープインパクト産駒としてはジェンティルドンナが牝馬三冠を達成していますが、父子二代でのクラシック三冠制覇は史上初のこと。また本年はデアリングタクトが無敗のまま牝馬三冠を達成しており、史上初めて同一年に牡牝三冠馬が誕生したことになります。

●黒岩陽一調教師が100勝、中川公成調教師が200勝を達成

10月25日(日)の4回東京6日・第5レースではリフレイムが1着となり、同馬を管理する黒岩陽一調教師(美浦)は、現役154人目となるJRA通算100勝(延べ2024頭目)を達成しました。同日の4回新潟6日・第7レースではキョウエイパラストが1着となり、同馬を管理する中川公成調教師(美浦)は、現役109人目となるJRA通算200勝(延べ3248頭目)を達成しました。

●石橋脩騎手がJRA通算1万1000回騎乗を達成

10月25日(日)の4回東京6日・第7レースでミツカネプリンスに騎乗した石橋脩騎手(美浦・フリー)は、この騎乗で史上36人目、現役では23人目となるJRA通算1万1000回騎乗を達成しました。

●秋の新潟リーディングジョッキーは吉田隼人騎手

10月25日(日)をもって4回新潟競馬が終了し、この開催で8勝をあげた吉田隼人騎手(美浦・フリー)が開催リーディングジョッキーとなりました。

★地方競馬ニュース 文・宇田川淳★

●兼六園ジュニアCは無敗サブノタマヒメ【各地の主要2歳重賞】

兼六園ジュニアC(10月11日、金沢、1500円)は、サブノタマヒメ(牝、父ブライサイスエンド)が4番手追走から4コーナーで先頭に立って後続を半馬身抑え、単勝1.3倍の支持に応じて無傷の6連勝を達成。サンライズC(10月1日、門別、1800円)は、2番手から3コーナー過ぎに抜け出した5番人気のシビックドライブ(牡、父カジノドライブ)がそのまま押し切って重賞初制覇を果たしています。

●JBCにクリソベルル、ジャスティン、ファッシュニスタらが参戦

JBCクラシック(Jpn I、11月3日、大井、2000円)は、クリソベルル、オメガパフューム、チュウウウィザードの三つ巴の様相で、デルマルーヴル、ロードレガリス、ダノンファラオ、サクラアリュールは少し差があり、ノンコノユメ(大井)、モジアナフレイバー(大井)、サウンドトゥルー(船橋)の一角崩しもありそうです。

JBCスプリント(Jpn I、11月3日、大井、1200円)は、ジャスティン、コパノキッキング、サクセスエナジー、ブルドッグボス(浦和)、マテラスカイ、ヒロシゲゴールド、ミスターメロディの順に有力視され、モズスーパーフレアは初ダートが課題となります。

JBCレディスクラシック(Jpn I、11月3日、大井、1800円)は、混戦模様もファッシュニスタが中心、以下マルシュロレス、マドラスチェック、プリンシアコメータ、レーヌブランシュ、ローザノワール、シネマソングスまでが争奪圏内と考えられます。

北海道2歳優駿から衣替えしたJBC2歳優駿(Jpn III、11月3日、門別、1800円)は、JRA所属馬ではタイセイアゲインとルーチェドーロが双壁で、レイニーデイ、カズカボレイ、プライムデイはちょっと見劣りする印象があるため、ラッキードリーム、ブライトフラッグ、シビックドライブら地元北海道勢が強敵となるでしょう。※最新の開催情報は各主催者のホームページ等でご確認ください。

★海外競馬ニュース 文・秋山響★

●G1コックスプレート〜サードラゴネットがG1初制覇

10月24日にオーストラリアのムーニーバレー競馬場で行われた、G1コックスプレート(3歳上、芝2040m)はG.ボス騎手を背に中団でレースを進めたサードラゴネット(牡4歳=現地年齢表記5歳、父キャメロット、C.マー&D.ユースタス厩舎)がA.オブライエン厩舎(愛)のアーモリーに1.25馬身差をつけて優勝しました。A.オブライエン厩舎の所属馬だったサードラゴネットはデビューから2連勝で昨年5月のG3チェスターヴァーズ(芝2460m)を制覇。その後は今年7月の前走G1タタソールズゴールドC2着まで7連敗となっていました。新オーナーにトレードされ、オーストラリアに移籍しての初戦となった今回のレースでG1タイトルを手に入れました。

●G1フューチュリティロフィー〜マックスウィニーが制す

今シーズン最後のイギリスG1であるフューチュリティロフィー(2歳、芝1600m)が10月24日にドンカスター競馬場で行われ、アイルランドから遠征したマックスウィニー(牡、父ニューアプローチ、J.ボルジャー厩舎)が $\frac{3}{4}$ 馬身差で優勝しました。マックスウィニーは今年8月のG2愛フューチュリティS(芝1400m)で重賞初制覇。続いて向かった前走のG1ヴィンセントオブライエンナショナルSは8着でしたが、見事に巻き返しました。